

# インドネシア -- 膨大な数の島から成る多民族国家の人口把握 (特集 人口センサスからみる東アジアの社会大変動)

著者	増原 綾子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	238
ページ	40-43
発行年	2015-07
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00003164">http://hdl.handle.net/2344/00003164</a>

インドネシア

膨大な数の島から成る  
多民族国家の人口把握

増原 綾子

●インドネシアにおける人口  
センサス略史

インドネシアにおいては、オランダ植民地時代の一九三〇年に初めて本格的な人口センサスが行われた。一九四五年の独立以降は、一九六一年、一九七一年、一九八〇年、一九九〇年、二〇〇〇年、

二〇一〇年の計六回、行われてきた。また、一九七六年、一九八五年、一九九五年、二〇〇五年にはセンサス中間人口サーベイ（サンプル調査）が実施されている。

表1は、一九六一年から二〇一〇年までのインドネシアの人口数と人口増加率の推移である。この五〇年間でインドネシアの人口は九七〇〇万人から二億三七〇〇万人へと二・五倍近く増加している。年換算の人口増加率は、一九七一年から一九八〇年までは二・三%であったが、二〇〇〇年から二〇一〇年までの一〇年間で一・五%程度にまで低下した。

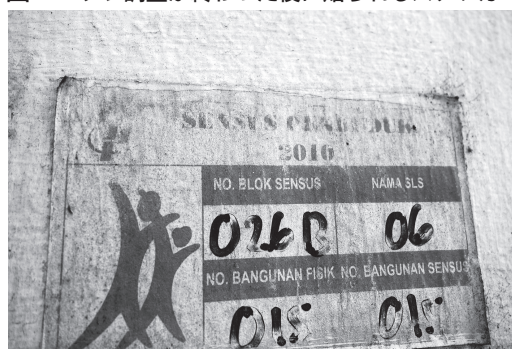
●二〇一〇年人口センサスの  
実施体制

二〇一〇年の人口センサスは、五月一日から三十一日までの一カ月間に、全国三三州、四九七県・市、

六六五一郡、七万七一二六村・行政村で行われた。前回二〇〇〇年の人口センサスが経済危機のおおりに受けて厳しい予算的制約の下で行われたのに対して、二〇一〇年の人口センサスは、好調な経済を背景に、三・三兆ルピア（約三三〇億円）規模の予算を使って、ポスターやパンフレットの掲示（図1参照）、ステッカーの配布、チームソングの放送などによって人口センサスの重要性を国民に徹底して周知させたうえで行われた（二〇〇〇年センサスの費用は、一九九七〜二〇〇二年における各種センサス向けの全予算、四〇億ルピアのなかから支出されており、二〇一〇年センサス予算の一〇分の一程度であったと推測される。二〇〇〇年センサスの質問票の設問数がきわめて少ないのは予算不足が一因とみられる）。

調査員は全国で七五万人が動員された。人口規模の大きさ、島の数の多さ（インドネシアの島の数は一万三三〇〇であり、世界最大である。このうち人が住んでいる島は六〇〇〇程度であるといわれている）、海以外に密林や山地など様々な自然障壁の存在、船上生活者のような非定住民の多さなどを考慮に入れると、七五万人とい

図2 プレ調査が終わった後に貼られるステッカー



(出所) 筆者撮影。

図1 2010年人口センサスのロゴ



(注) インドネシア語で「あなたもちゃんと入っていますか」とある。  
(出所) 中央統計庁のウェブページより。

表1 1961年から2010年までのインドネシア  
人口数と人口増加率の推移

年	人口数	人口増加率(%)
1961	97,000,000	—
1971	119,208,229	2.13
1980	147,490,298	2.33
1990	179,378,946	1.97
2000	205,132,458	1.44
2010	237,641,326	1.49

(注) 1961年の人口数には西イリアン人口70万人（推定）が含まれる。1980年と1990年の人口数には東ティモールも含まれる。また、1971年以降の人口数には船上生活者など非定住民を含む。  
(出所) *Pertumbuhan dan Persebaran Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk 2010*, Jakarta: BPS, 2010.

表2 宗教人口の推移（1990～2010年）

	1990年	2000年	2010年
イスラーム	156,318,610 (87.21%)	177,528,772 (88.22%)	207,176,162 (87.18%)
プロテスタント	10,820,769 (6.04%)	11,820,075 (5.87%)	16,528,513 (6.96%)
カトリック	6,411,794 (3.58%)	6,134,902 (3.05%)	6,907,873 (2.91%)
ヒンドゥー	3,287,309 (1.83%)	3,651,939 (1.81%)	4,012,116 (1.69%)
仏教	1,840,693 (1.03%)	1,694,682 (0.84%)	1,703,254 (0.72%)
儒教	—	—	117,091 (0.05%)
その他	568,608 (0.32%)	411,629 (0.20%)	299,617 (0.13%)
無回答	—	—	139,582 (0.06%)
不明	—	—	757,118 (0.32%)
合計	179,247,783 (100%)	201,241,999 (100%)	237,641,326 (100%)

(出所) Hasil Sensus Penduduk 1990, Jakarta: BPS, Hasil Sensus Penduduk 2000, Jakarta: BPS, Akhsan Na'im dan Hendry Syaputra, Kewarganegaraan, Suku Bangsa, Agama, dan Bahasa Sehari-hari Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk 2010, Jakarta: BPS のデータに基づき、筆者作成。

う数字は決して大きくはないだろう。プレ調査と本調査の二段階で訪問調査が行われた。インドネシアでは調査員が戸別訪問して住民と面接し、質問票に記入するという方式が採られているが、プレ調査では調査員に監督官が同行し、ミスがないかをチェックしながら行われる。プレ調査が終わった世帯

には本調査との重複を避けるためにステッカーが貼られる（末廣昭氏とインドネシア大学経済学部のパダン・ウィチャクソノ氏の中央統計庁での聞き取り調査による。図2はステッカーの写真）。

調査対象者は、インドネシアに居住するすべてのインドネシア人、インドネシアに六カ月以上滞在する外国人もしくは六カ月以下の短期滞在であってもインドネシアに居住する意思のある外国人である（大使館員は除く）。質問票の使用言語はインドネシア語の他に、英語、フランス語、日本語、韓国語、中国語の六カ国語がある。在外公館に勤務するインドネシア人とその家族に対してはEメールとウェブサイトを使った調査が行われたが（e-census）、海外労働者は調査対象となっていない。

## ●二〇一〇年人口センサス質問票の設問項目

設問項目は、①性別、②生年月日、③年齢、④出生地、⑤宗教、⑥障がいの有無と種類、⑦国籍、⑧エスニック・グループ、⑨婚姻、⑩五年前の居住地、⑪日常的に使用する言語、⑫インドネシア語能力、⑬読み書き能力、⑭就学状況、

⑮最終学歴、⑯一週間前の活動、⑰職業分野、⑱職場での地位、⑲出産経験の有無、⑳出産した子どもの数、㉑生存する実子の数と同居の有無、㉒死亡した子どもの数、㉓二〇〇九年以降の出産の有無、㉔二〇〇九年以降の死亡者の有無と人数、㉕死亡者の名前・性別・死亡時期・年齢、㉖一〇歳以上の女性の死亡および死亡時の妊娠・分娩・出産状況の有無、㉗住居の床の素材と面積、㉘灯りの燃料、㉙調理の燃料、㉚飲料水の種類、㉛トイレの有無と個人・共用の別および汚物処理槽の有無、㉜電話の有無と種類、㉝インターネット使用、㉞家屋の所有・賃貸の別、㉟土地所有権の有無と種類である。二〇一〇年センサスでは、⑥障がいの有無と種類に関する設問が初めて入った。世帯内の高齢者の健康状態を確認することを意図した設問であり、徐々に進みつつある社会の高齢化や、身寄りのない高齢者への公的扶助制度の設置を背景に導入されたと考えられる。また、㉟土地所有権の種類を具体的に問う設問が初めて入った。背景には、土地所有をめぐる紛争が頻発している事実がある。

## ●国籍、宗教、言語、エスニシティ

二〇一〇年のインドネシア人口二億三七六四万一二六人のうち、九九・六二％を占める二億三六七二万八三九人がインドネシア国籍である。〇・〇三％にあたる七万三二二七人が外国籍、〇・三五％にあたる八三万九七三〇人は国籍不明者である（住所不定者に対する質問票L2には国籍や宗教を尋ねる設問がなく、また遠隔地居住者、船上生活者、外交官とその家族を含む海外居住者に対する質問票C2には国籍を尋ねる設問がない。ここでの国籍不明者および表2の宗教の不明者はそういった人々を指す）。

宗教については、二〇一〇年のセンサスから設問の選択肢のなかに儒教が新たに加わったことで、イスラーム、プロテスタント、カトリック、ヒンドゥー、仏教、儒教、その他、の選択肢のなかから選べるようになった（一九七〇年センサスでは選択肢のなかに儒教が含まれていたが、一九八〇年センサス以降、選択肢から削除されていた）。

表2は一九九〇年センサス、二〇〇〇年センサス、二〇一〇年セ

表4 インドネシア語を日常的に使用する人口割合の多い州と少ない州 (2010年、%)

ジャカルタ特別州	90.69	マルク州	0.70
西バプア州	69.71	北スラウェシ州	0.89
リアウ諸島州	58.68	中部ジャワ州	1.91
北スマトラ州	55.56	北部マルク州	2.40
東カリマンタン州	53.47	南部スマトラ州	2.46
ゴロンタロ州	47.61	東部ジャワ州	3.27
中部スラウェシ州	42.34	バンカ・プリトゥン州	3.87

(出所) Akhsan Na'im dan Hendry Syaputra, *Kewarganegaraan, Suku Bangsa, Agama, dan Bahasa Sehari-hari Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk 2010*, Jakarta: BPS のデータに基づき、筆者作成。

表5 100万人以上のエスニック・グループの人口と割合 (2010年)

エスニック・グループ (エスニック・グループ数)	人口 (割合)
アチエのエスニック・グループ (12)	4,091,451 (1.73%)
バタック (8)	8,466,969 (3.58%)
ニアス (1)	1,041,925 (0.44%)
ムラウ (9)	5,365,399 (2.27%)
ミナンカバウ (1)	6,462,713 (2.73%)
ジャンビのエスニック・グループ (6)	1,415,547 (0.60%)
南スマトラのエスニック・グループ (28)	5,119,581 (2.16%)
ランブンのエスニック・グループ (14)	1,381,660 (0.58%)
その他のスマトラのエスニック・グループ (34+α)	2,204,472 (0.93%)
ブタウィ (1)	6,807,968 (2.88%)
バンテンのエスニック・グループ (2)	4,657,784 (1.97%)
スンダ (1)	36,701,670 (15.50%)
ジャワ (7+α)	95,217,022 (40.22%)
チレボン (1)	1,877,514 (0.79%)
マドゥラ (1)	7,179,356 (3.03%)
バリ (3)	3,946,416 (1.67%)
ササック (1)	3,173,127 (1.34%)
その他の西ヌサ・トゥンガラのエスニック・グループ (6)	1,280,094 (0.54%)
東ヌサ・トゥンガラのエスニック・グループ (75+α)	4,184,923 (1.77%)
ダヤク (268)	3,009,494 (1.27%)
バンジャール (2)	4,127,124 (1.74%)
その他のカリマンタンのエスニック・グループ (125+α)	1,968,620 (0.83%)
マカッサル (1)	2,672,590 (1.13%)
ブギス (1)	6,359,700 (2.69%)
ミナハサ (10)	1,237,177 (0.52%)
ゴロンタロ (1)	1,251,494 (0.53%)
その他のスラウェシのエスニック・グループ (207+α)	7,634,262 (3.22%)
マルクのエスニック・グループ (84+α)	2,203,415 (0.93%)
バプアのエスニック・グループ (466+α)	2,693,630 (1.14%)
華人 (3)	2,832,510 (1.20%)
外国 (13)	162,772 (0.07%)
合計 (1377+α)	236,728,379

(注) エスニック・グループ数は下記資料の23-27ページの分類表に従って計算した。「外国」もカテゴリーとして含まれているため、この表にも含めた。なお、「外国」はここではアメリカ、アラブ (ママ)、オーストラリア、インド、イギリス、日本、韓国、マレーシア、パキスタン、フィリピン、シンガポール、タイ、オランダ出身のインドネシア国籍者を指す。「華人」は華人の他に中華人民共和国、台湾出身のインドネシア国籍者を指す。エスニック・グループの合計数 (1377+α) には「外国」は含まず、「華人」は1で計算した。+αは「～以上」を意味する。

(出所) Akhsan Na'im dan Hendry Syaputra, *Kewarganegaraan, Suku Bangsa, Agama, dan Bahasa Sehari-hari Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk 2010*, Jakarta: Badan Pusat Statistik のデータに基づき、筆者作成。

表3 5歳以上の人が日常的に使用する言語 (1980～2010年、%)

	1980年	1990年	2010年
インドネシア語	11.80	15.19	19.97
地方語・その他合計	87.46	84.36	79.77
ジャワ語	40.97	38.08	31.83
スンダ語	14.95	15.26	15.16
マドゥラ語	4.80	4.29	3.62

(出所) *Hasil Sensus Penduduk 1980*, Jakarta: BPS, *Hasil Sensus Penduduk 1990*, Jakarta: BPS, *Hasil Sensus Penduduk 2000*, Jakarta: BPS, Akhsan Na'im dan Hendry Syaputra, *Kewarganegaraan, Suku Bangsa, Agama, dan Bahasa Sehari-hari Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk 2010*, Jakarta: BPS のデータに基づき、筆者作成。

ンサスに基づく宗教人口の推移である。二〇年間というタイムスパンでみると、ムスリム人口は約五〇〇万人増加し、全人口に占める割合も八七・八八%で、ほぼ一定している。プロテスタントとカトリックの人口割合については、前者が上昇傾向にあるのに対して、後者は低下傾向にある。

表3は、五歳以上の人が日常的に使用する言語の割合である。調査が始まったのは一九八〇年であり、二〇〇〇年センサスではこの割合は低下傾向にある。二〇〇〇年センサスではこの割合は約八%上がり、ほぼ二割に達した。地方語およびその他の言語を話す人の割合は約八%低下した。地方語のうち、特にジャワ語を日常的に使用する人の割合は約九%低下しており、他の地方語に比べて変化が大きいことがわかる。

表4をみると、インドネシア語を日常的に使用する人の割合が最も多い州はジャカルタ特別州であり、九割と圧倒的な数字である。リアウ諸島州や東カリマンタン州など他州からの出稼ぎ者が多い州でもその割合は多い。反対に少ないのは、マルク、北スラウェシ地域、中部・東部ジャワ、スマトラの南部である。これらの地域では、地方語を日常的に使う人の割合は九割以上である。



表5はエスニック・グループ別の人口とその割合である。自己申告に基づくエスニック・グループ別の人口統計は、インドネシア独立後では前回二〇〇〇年の人口センサスで初めて行われたが、このときの調査でエスニック・グループ数が一〇〇〇以上にのぼったことを受けて、二〇一〇年人口セン

サスでは、一〇〇万人以上のエスニック・グループは独立したカテゴリーとし、それ以下のエスニック・グループについては、複数のエスニック・グループを地域ごとに一まとめにするという分類方法が採用された。この中央統計庁の分類方法に基づく、表5のようにエスニック・グループの総称

表6 ジャカルタ首都圏（ジャボデタベック）の形成（1990～2010年）

	人口（人）		増加率 （%）	GPP（100万ルピア）		1人あたりの GPP （100万ルピア）	
	1990	2010		1990	2010	1990	2010
（1）首都							
ジャカルタ 特別州	8,227,746	9,607,787	117	22,830,244	861,992,100	2.77	89.72
全国	179,247,783	237,556,363	133	195,597,200	6,446,851,900	1.09	27.14
対全国比 （%）	4.60	4.00		11.70	13.40	254	331
（2）ジャカルタ首都圏（ジャボデタベック）							
ジャカルタ 特別州	8,227,746	9,607,787	117	22,830,244	861,992,100	2.77	89.72
ボゴール県	3,736,870	4,763,209	174	2,405,085	73,800,701	0.64	15.49
デポック市		1,736,565			16,144,726		9.3
ボゴール市	271,341	949,066	350	300,697	13,908,900	1.11	14.66
タンゲラン県	2,764,988	2,838,592	168	2,319,352	34,866,222	0.84	12.28
タンゲラン市		1,797,715			56,921,248		31.66
プカシ県	2,104,392	2,629,551	236	1,484,730	97,526,722	0.71	37.09
プカシ市		2,336,489			35,679,065		15.27
ジャボデタ ベック小計	17,105,337	26,658,974	156	29,340,108	1,190,839,684	1.72	44.67
対全国比 （%）	9.50	11.20		15.00	18.50	157.20	164.60

(注) 1990年時点でデポック市、タンゲラン市、プカシ市はなく、それぞれボゴール県、タンゲラン県、プカシ県に含まれていた。タンゲラン市は1993年に設立された。1990年のタンゲラン市の所得データがないため、2,319,352は1991年のタンゲラン県とタンゲラン市の所得（1,049,554と1,269,798）を足し合わせた数字である。  
(出所) Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk 1990, Jakarta: BPS, 1992, Pendapatan Nasional Indonesia 1988-1993, Jakarta: BPS, 1993, Produk Domestik Regional Bruto Kabupaten/Kotamadya di Indonesia 1983-1993, Jakarta: BPS, 1993, DKI Jakarta dalam Angka 2013, BPS Provinsi DKI Jakarta, PDRB Jawa Barat Atas Dasar Harga Berlaku Menurut Kabupaten/Kota 2008-2011, BPS Provinsi Jawa Barat, PDRB Atas Dasar Harga Berlaku Menurut Lapangan Usaha 2009-2012, BPS Kabupaten Tangerang, Statistik Indonesia 2014, Jakarta: BPSに基づき、筆者作成。また、新井健一郎『首都をつくる——ジャカルタ創造の50年』東海大学出版会、2012年も参考にした。

## ●ジャカルタ首都圏の形成

（例えば「バタック」や「ダヤク」と地域ごとにエスニック・グループをまとめたもの（網掛部分）とが混在することになり、さらには一〇〇万人以上のエスニック・グループのなかでも、ひとつのエスニック・グループから成るもの（例えば「スンダ」や「ミンカバウ」と複数のエスニック・グループから成るもの（例えば「ジャワ」にはジャワの他に六以上のエスニック・グループが含まれる）とが併存することになった。エスニック・グループの分類に地域概念を混在させることは是非については議論の余地があるが、いづれにせよ一三〇〇を超えるエスニック・グループを分類することの難しさを示しているといえる。

表6は、一九九〇年から二〇一〇年までのジャカルタ特別州およびその近郊地域、すなわち「ジャボデタベック（ジャカルタ、ボゴール、デポック、タンゲラン、プカシの頭文字をとって）」と呼ばれるジャカルタ首都圏における人口とGPPの拡大過程を示したものである。

二〇一〇年までの二〇年間にジャカルタ特別州の人口は一七％増えたが、全国における人口の増え方（三割増）よりも小さい。むしろその近郊地域で人口が大幅に増加していることがわかる。特にボゴール市の人口は三・五倍に、プカシ県およびプカシ市の人口は二・三六倍となり、大幅に増加している。これらの地域がジャカルタに通勤する人のベッドタウンとして、この二〇年間で急速に拡大していったことがわかる。

一人あたりのGPPをみると、首都のジャカルタで極端に高く（全国比でみると三・三倍）、工業団地が集中しているプカシ県とタンゲラン市でもかなり高い。他方で、デポック市やボゴール県およびボゴール市などそれ以外の地域の一人あたりのGPPは、プカシ県とタンゲラン市の半分程度もしくは半分にも満たない。つまり、工業団地として発展してきた地域と、首都および工業団地のベッドタウンとして発展してきた地域とが隣接しながらも明確に分かれる形で、ジャカルタ首都圏が形成されてきたといえよう。  
（ますはら あやこ／亜細亜大学国際関係学部）